

周囲約132kmの屋久島は、ほぼ円形であり、温暖な黒潮の中に2,000mに迫る山岳を有する島です。世界自然遺産に登録されたすぐれた原生自然と、人の手が加わりながらも維持されてきた自然、そして自然とともに生き、さまざまな文化をはぐくんできた人々のくらしがあります。この三者が相互に関係しながら一つの島に共存していること、これが世界に誇る屋久島の特徴です。このような自然と人間の関わり合いを屋久島では「環境文化」と呼んでいます。そのため、豊かな自然を観察するばかりでなく、人と自然の共生を考えるなど学習素材が豊富にあります。まずは、この世界自然遺産の大自然を感じ、そして人と自然との共生について考えてみましょう。

特徴1

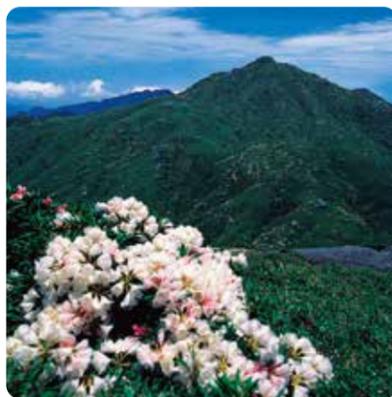
世界自然遺産 ～他に比類のない自然景観～

世界遺産とは「人類共通のかけがえのない財産として、将来の世代に引き継いでいくべき宝」です。世界自然遺産に登録されるためには、4つの評価基準である「自然美」、「地形・地質」、「生態系」、「生物多様性」のいずれかを満たす必要があります。屋久島はこの基準の「自然美」と「生態系」が評価され、1993年に世界自然遺産に登録されました。遺産登録地域は島の中心部の山岳地帯や西の海岸部など、約10,700haで、島全体の約20%を占めています。この遺産地域には、世界的にも稀な樹齢数千年のヤクスギをはじめ、高山植物が生えています。それ以外にも苔に覆われた杉林、豊かな水が流れ落ちる雄大な滝、冬には「洋上のアルプス」といわれる由来の奥岳の雪景色など、すばらしい自然景観があります。

特徴2

亜熱帯から冷温帯に及ぶ植物の垂直分布

屋久島では、他にない植生の垂直分布を見ることができます。北緯30度の少し北にある屋久島は、平均気温が20℃近い亜熱帯の北の端といった気候で、人里にはハイビスカスやブーゲンビリアなど熱帯の花も咲いています。しかし、標高2,000m付近、宮之浦岳の山頂あたりは、北海道なみの冷温帯に近い気候となります。屋久島は直径30kmに満たない島ながら、南北2,000kmにおよぶ日本列島の自然が詰め込まれているのです。海岸から山頂への気温の変化に合わせて南から北へと植生が移り変わる植物の垂直分布を見ることができ、世界自然遺産登録に関する国際自然保護連合のレポートで、植物分布の地理上の区界を越える植生として評価されています。実際に自分の足で歩きながら、この植生を観察するのもおすすめです。



特徴3

自然と人との共生

屋久島が世界自然遺産に登録された当時、「自然遺産としての屋久島の価値は多くの人が暮らしているながら、すぐれた自然が残されていることにある。」と言われました。登録を契機に、この美しい自然に触れようと多くの観光客が訪れるようになり、観光という新しい産業を島へもたらしました。一方、多くの人々が訪れることによるゴミの増加や尿処理の問題など、環境に及ぼす影響も心配されるようになりました。屋久島では美しい自然を守りつつ、観光地として多くの観光客を受け入れられるよう、入山協力金の導入や電気自動車の普及など自然との共生を目指す様々な取り組みが行われています。大自然を味わうだけでなく、「世界自然遺産登録までの取り組み」や「世界自然遺産登録の影響」、「環境保全と経済活動の両立」など様々なテーマ探求も興味深いです。



大川の滝(水力発電を支える豊富な水)



電気自動車用急速充電設備(屋久島町栗生)

主な取り組み

- 屋久島 CO2 フリーの島づくり (低炭素社会地域づくり)
- 島内のほぼ全ての電力を賄う水力発電
- 山岳部保全募金活動
- 携帯トイレ普及活動 など

【学習施設案内】

学習施設 屋久島環境文化研修センター

連絡先 P23、①番



屋久島をフィールドとして自然の大切さや自然と人とのかかわりを学ぶ環境学習の研修施設です。セミナーや野外観察会など多様な環境学習プログラムを提供しています。

主な研修プログラム

- 自然観察活動
ヤクスギランド観察、白谷雲水峡観察、西部林地帯観察、亜熱帯植物観察、タイドプール(潮だまり)観察、川の生物観察など
 - 屋内研修
屋久杉の概要レクチャー、天文教室など
- ※SSH指定校やSPP(サイエンス・パートナー・シップ)支援校にはそれぞれのねらいに沿った研修を実施しています。

学習施設 屋久島世界遺産センター

連絡先 P23、②番



世界遺産と屋久島の自然の奥深さを学べる施設です。立体地図、書籍、映像、標本などで五感を使って楽しむことができます。

主な研修プログラム

- 屋外研修
環境省レンジャーの仕事、ヤクシカの生態と課題、西部地域の生物調査など
- 屋内研修
環境省レンジャーの仕事、屋久島の自然と課題、世界自然遺産や国立公園の概要及び自然を守る取組などのレクチャー

学習施設 屋久杉自然館

連絡先 P23、③番



屋久杉のすべてを語る博物館です。屋久杉と伐採の歴史、屋久杉と人々の関わり、土埋木と工芸などを模型やパネルなどで詳しく紹介しています。ご希望により、施設職員による縄文杉や屋久杉と人の関わりや島の成り立ちなどの講義を受講することもできます。また、屋久杉や地杉を使ったキーホルダーや時計づくりなどのクラフト体験も実施できます。

ピックアップ!

屋久島の美しい景観をつくる屋久杉

屋久杉

屋久島の標高500mを越える山地に自生しているスギのうち樹齢1000年以上のものを屋久杉、それ以外を小杉と呼んでいます。巨木で知られる屋久杉は一万数千haに及ぶ大森林をつくっています。そこでは数千年の巨木から若い屋久杉へと命が受けつがれるありさまや、さまざまな種類の樹木がつくる自然林の姿を見ることができます。

長命な巨木

杉の平均寿命は500年程といわれますが、屋久島の森では2000年を越える巨木が見られます。屋久杉は、新鮮な水に恵まれながら、栄養の乏しい花崗岩の山地に育つため、たいへん成長がおそいものの、材質が緻密で樹脂分が多く腐りにくいという特徴があり、長生きであると考えられています。

腐れにくい丈夫な木

屋久杉には一般のスギの6倍以上の樹脂分が含まれており、このため江戸時代に伐採された残材(苔におおわれ、その上にさまざまな樹木が育っており、まるで地面の一部のように見えることから土埋木と呼ばれています。)や切り株が、朽ちることなく森の中に残っています。屋久杉工芸はこうした森の中の残材を加工してつくっています。

